

森にひっそりと咲く、貴重な植物たち～その②～

前号でも紹介しました、那須平成の森で見つかった貴重なラン科植物。今回も、その希少性についてお伝えできればと思っています。

○エビネ 栃木県・環境省レッドデータブック 準絶滅危惧種

エビネは落葉樹林やスギ人工林に生育しています。那須平成の森では、見かけることはほとんどなく、数はかなり少ないと思われます。

花の色には様々な変異がみられ、その魅力的な姿から盗掘（とうくつ）が後を絶ちません。日本の野生ランの中ではかつて普通に見られる種だったそうですが、今では絶滅の危機に瀕しています。

種子から発芽しても、花が咲くには5年以上かかると言われているため、個体数の回復には相当な時間と労力が必要なのです。



○コケイラン 栃木県レッドデータブック 準絶滅危惧種

エビネに似た花を咲かせるため、別名「ササエビネ」とも呼ばれます。那須平成の森では、湿り気のある林内など限られた場所で見ることができません。

地下に偽球茎（ぎきゅうけい）と呼ばれるラン科植物特有の器官をもっており、その偽球茎には水や栄養素などを蓄えることができます。

偽球茎自体の寿命は1年～5年と短いですが、偽球茎から塊茎を産生することもできるため、長期間生存することが可能なのです。



ラン科植物は、その花の美しさや姿の面白さから鑑賞価値が非常に高い植物です。そのため、採取圧（盗掘）により大半の種が絶滅の危機にあります。前号でもお話したように、ラン科植物は共生する菌類がいなければ、生きていけません。（西垣）

インターフリターが独自の視点で語る…

インターフリターの部屋 Part. 10 ～のご編～

私の「宝探し」を紹介!

森の中で生き物が残した「落とし物」を見つけた時、いつも思わず心が躍ってしまいます。

先日発見したのは、四阿（あずまや）に一列に残された白い糞。周りにはペリット（消化できない部分を塊にして吐き出したもの）や羽も落ちていました。「フクロウの痕跡だ!若い兄弟が仲良く梁に並んで、雨宿りしながらくつろいでいたのかな…」と、思わず想像が広がりました。

なかなか姿を見せない彼らが、確かにいる証拠たち。そこから彼らの姿や暮らしに思いを巡らせるとき、ぐっと森に心が近づいたような気持ちになるのです。（島崎）



見
つ
か
る
か
な
?
今
日
は
何
が



「那須平成の森 花札」

10月、11月、12月の花札を紹介します。花（樹）は、それぞれメグスリノキ、アオハダ、ヤドリギです。実りの秋から冬に向かう那須の森です。

10月 メグスリノキ

20点



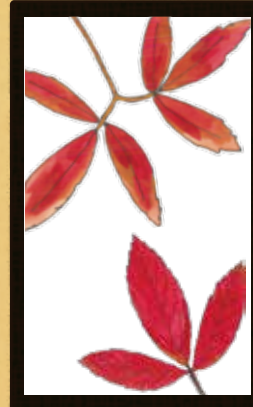
駒止の滝の紅葉にかかせないメグスリノキ。

5点



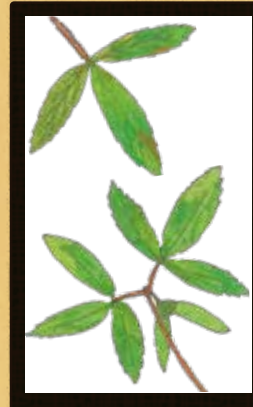
5cmくらいに開く大きな翼果。

カス札



サーモンピンクに染まる赤は、絶品!

カス札



葉は3出複葉の対生。葉柄には毛がびっしり。

11月 アオハダ

20点



アオハダには、ほぼツキノワグマの爪あとがあります。

5点



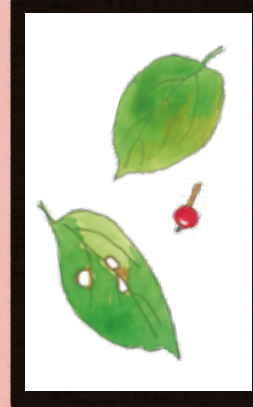
核果で赤く熟す果実。

カス札



短枝が発達し、うろこ状の葉痕が特徴。

カス札



晩秋にはたくさんの果実が地面に落ちてきます。

12月 ヤドリギ

10点



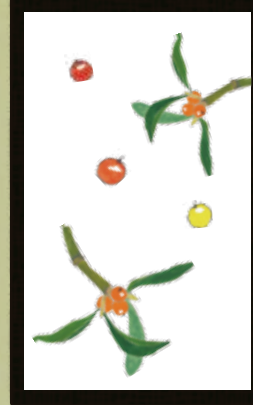
ヤドリギの実が好物のヒレンジャク。糞はネバネバして、行く先々で宿主に粘着します。

5点



春夏には全く見えなかった「ぼんぼり」が秋冬にはキュートにお目見え。

カス札



落葉樹の枝に寄生する半寄生植物。

カス札



葉が落ちると一層、存在感を増す「ブナ太郎」。